

二〇二五年度 夏期「東大現代文」 問題【4】

〈一般的採点基準〉

- a 誤字・脱字・略字・表現未熟・文末表現ミス・文末句点なし等……マイナス1点。設問毎に減点
- b 未完成……失格
- c 解答欄の不正使用（二行書き、書き過ぎその他）……失格
- d 比喩表現のママなど……減点もしくは加点無し

〈設問別採点基準〉

一（6点）

実際の歴史的出来事が生起し完結する実在的历史と、物語る行為とについて、時間的順序が逆転した説があるということ。

*①・④は、必須ポイント

- ① 構文Ⅱ一つの歴史観は相違するということ 1点
- ② 実際の歴史的出来事が生起し完結した後に語られる（実在的历史） 2点
- ③ 書き、あるいは語る人間的行為（物語行為）によって実在的历史が成立する 2点
- ④ ②と③の説は時間的順序が逆転している 1点

二（6点）

「過去は変化する」という表現は、常識的には変更不可能である過去の事実が変更可能であることを意味し、矛盾があるから。

*①・④は、必須ポイント

- ① 主題Ⅱ「過去は変化する」という表現について 1点
 - *「過去は」のみであれば、不可。「言い方」の意に1点
- ② 常識では・過去（の出来事・事実）は変更できない 2点
- ③ ①は、過去が変更できることを意味している 1点
- ④ ①③は、②に矛盾するから 2点

解答モデルと採点基準

担当 中野 芳樹

三（6点）

俗にいう「歴史的事実」とは、諸々の出来事間の関係を繰り返し記述し直すことで重層化した、共有された想起であるということ。

*①と④もしくは⑤のいずれか一つとは、必須ポイント

- ① 主題Ⅱ歴史的事実と言われているものについて 1点
 - *「いわゆる」の置換に対して加点する
- ② ある出来事と他の出来事との連関（関係）を 1点
- ③ 繰り返し・記述し直す（修正と再編、生成と変化） 2点
- ④ 重層化して行く 1点
- ⑤ 「共同体の記憶のようなもの」の置換（集団的想起） 1点

四（16点）

歴史とは、出来事間の連関を物語る言語行為であり、完結した歴史全体という概念を前提とするイデオロギ―に規定された歴史観は終焉した。絶えず生成と変化を続け、本来的に未完結であるとする歴史観だけが、歴史の根源的な理論的考察を可能にするということ。（二二〇字）

*①・②は、必須ポイント

- ① 主題Ⅱ「その地点」について
 - a イデオロギ―に規定された・歴史観の・終焉 3点
 - b 歴史は絶えず生成と変化を続けていく 2点
 - c 歴史は本来的に未完結である 2点
- ② 真の意味での「歴史哲学」を構想する
 - Ⅱ歴史について根本的な・理論を考察しうる、など 2点
- ③ 「唯一の可能な場所」Ⅱ唯一の・可能な立場（歴史観） 2点
- ④ 歴史は出来事間の関係（連関）を・記述する（Ⅱ物語る）・言語行為である 3点
- ⑤ ①aは、完結した・歴史全体という概念を前提とする（歴史観である） 2点

五（各2点）

- a 示唆 b 壊滅 c 虚飾